

2 月末からの一斉休校が子どもたちの精神的健康に与えた影響について、休校前と休校中のデータを用いた縦断的な分析によって明らかにしました

研究背景

これまでの研究において、検疫や隔離が精神的健康に悪影響を与えることは示されており、2 月末からの突然の外出制限を伴う一斉休校（休業）は子どもたちの精神的健康に悪影響を与えた可能性があります。しかしながら、これまで一斉休校が子どもたちの精神的健康に与える影響について縦断的な分析を用いて検討したものはみられず、どのような影響を与えるのかについては明らかではありません。また一斉休校が与える影響は、その地域の感染状況、休校の期間、代替的な学習措置の有無等で異なってくるのが予想されるため、さまざまな条件における研究を積み重ねていく必要があるといえます。

研究概要

本研究は、調査時点で感染者が確認されていなかった鳥取県の小中学校で調査を実施したものであり、休校前の 12 月における調査データと休校中の 3 月中旬から 3 月末における調査データを用いて、一斉休校が子どもたちの精神的健康にどのような影響を与えたのかについて、縦断的に分析したものです。その際、休校中の行動等についても加味して分析を行いました。分析の結果、小中学校いずれにおいても、特に学校再開後にこれまで通りの日常に戻れるかどうかについての不安が高いほど精神的健康が悪いという関連が示されました。感染に対する不安や勉強の遅れに対する不安も精神的健康と関連していたものの、相対的には弱い関連でした。また、休校中の生活の乱れが大きいほど精神的健康が悪いという関連も示されました。12 月時点との比較では、全体としては小中学校ともに精神的健康の悪化はみられませんでした。しかしながら、12 月時点の学校適応で分類したうえで比較を行ったところ、小学校では 12 月時点の学校適応が高くも低くもない中程度であった者のみ精神的健康の悪化がみられました。中学校では、12 月時点の学校適応が高かった者のみ精神的健康の悪化がみられました。

今後の展望

本研究では、全体として精神的健康の悪化は示されなかったものの、小中学校ともに一部の群においては精神的健康の悪化が示されており、子どもたちの精神面へのケアが必要であることがあらためて確認されたといえます。また、学校再開後にこれまで通りの日常に戻れるかどうかについての不安が特に精神的健康と関連していたため、今後の見通しを示すことも子どもたちの精神的健康を保つ上では重要であるといえるでしょう。

本研究は、調査時点で感染者が確認されていなかった鳥取県における休校から約 1 か月後の時点での調査であり、感染者が多く確認されている地域では異なる結果になることが予想されます。また、より長期にわたる休校では、さらに大きな影響が予想されます。このため、より詳細に一斉休校が子どもたちの精神的健康に与えた影響を確認するためには、さまざまな地域での、時期ごとの影響を確認することが必要といえます。

研究助成

2019 年度学長裁量経費 学長リーダーシップ経費（教育・研究推進経費）「鳥取県下小中学校における不登校予防に寄与する個人要因および学級要因に関する探索的研究」

発表媒体

■小学生データ

プレプリント公開

タイトル：The Impact on Children's Mental Health of School Closures due to the measure to Prevent the Spread of the Novel Coronavirus (COVID-19)

著者：Yuma Ishimoto, Takahiro Yamane, Yuki Matsumoto, & Katsutoshi Kobayashi

DOI：

■中学生データ

日本心理学会第 84 回大会にて発表予定

タイトル：新型コロナウイルスの感染拡大予防のための一斉休校が子どものメンタルヘルスに与える影響—感染者が確認されていなかった地域における中学校での検討—

著者：石本雄真・山根隆宏・小林勝年

研究グループ

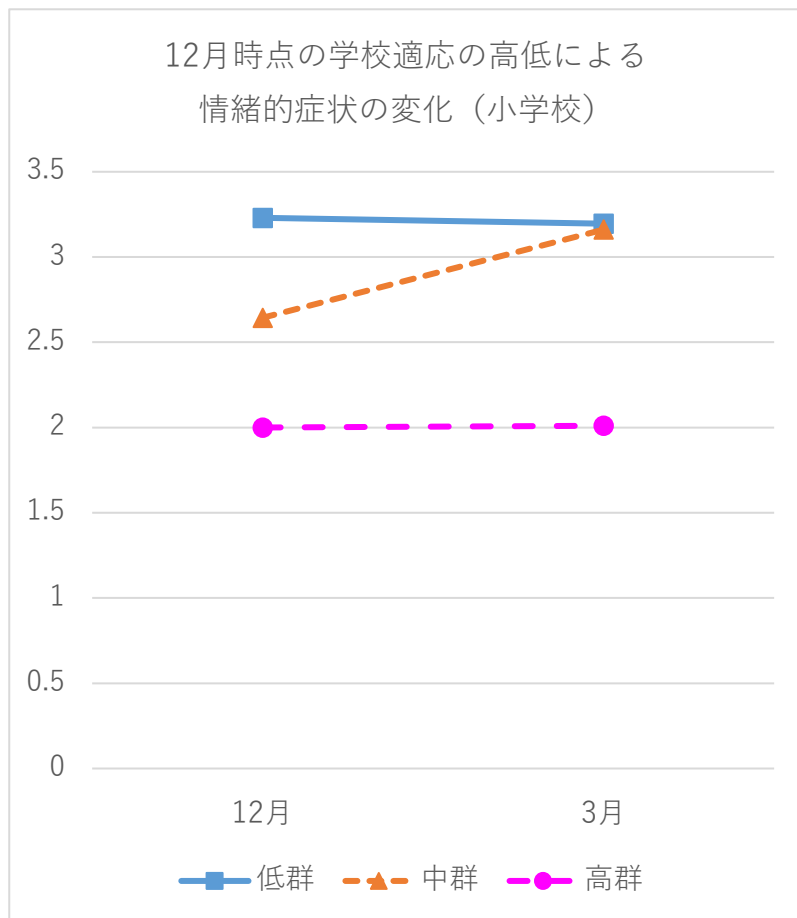
石本雄真（鳥取大学）

松本有貴（徳島文理大学）

山根隆宏（神戸大学）

小林勝年（鳥取大学）

図 1

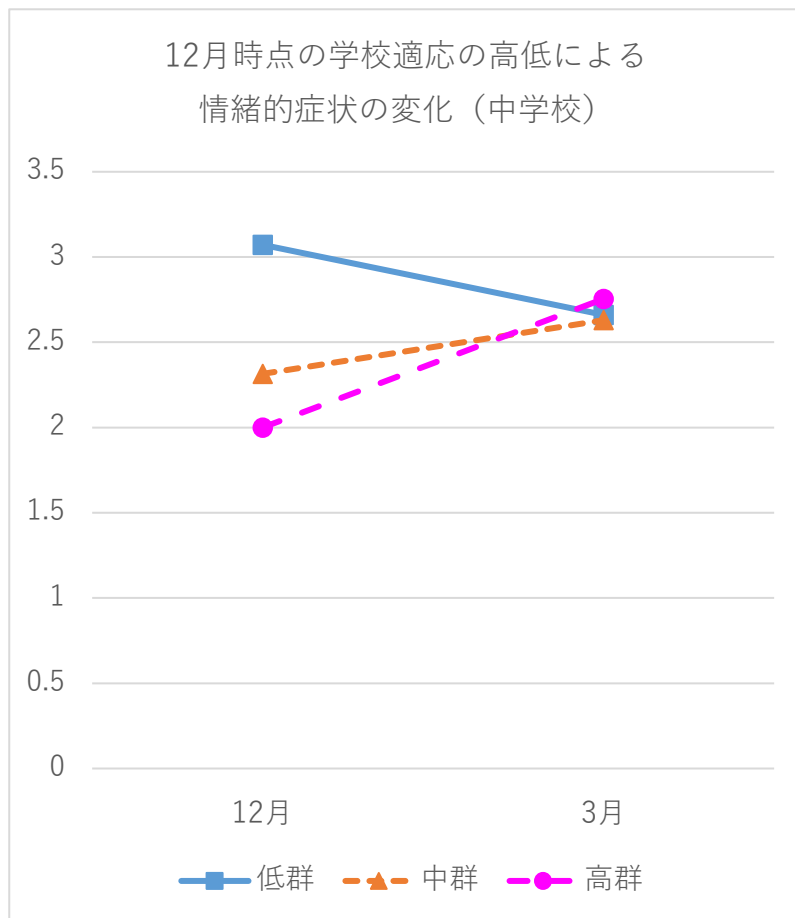


※SDQ（子どもの強さと困難さアンケート）の下位尺度である情緒的症狀を用いて分析を行った。

※得点範囲は0～10点。

※3～6年生のデータ。

図 2



※SDQ（子どもの強さと困難さアンケート）の下位尺度である情緒的症狀を用いて分析を行った。

※得点範囲は0～10点。

※1～2年生のデータ。